

絵本と親子交流に関する研究

後藤ヨシ子* 前田 敦子*

(平成16年3月15日受理)

A Study on Picture Books and Parent-Child Interactions

Yoshiko GOTO*, Atsuko MAEDA*

(Received March 15, 2004)

はじめに

父母が子どもに絵本を読み聞かせ(読み語り)る。読み聞かせは単純な作業ではあるが、子どもの心にさまざまな影響を与えるといえる。現代の親と子どもの間にあたたかい会話は、一日のうちに、どれほど交わされるであろうか。親子の心の交流にはいろいろな方法はあるといえるが、子どもに楽しい話を読み聞かせることは、この世の中で一番気持ちよくひびく音、それは母親や父親の声であろう。それがたとえ、美声でなくとも、どら声であろうとも、心おだやかな、その声で楽しい物語を読まれることは、子どもにとっては気持ちよく楽しい瞬間であろうと思える。こういう瞬間を、幼い日から何十回と繰り返かえし、繰り返かえし読み語られる絵本から、楽しさや感動をうけ、また親子の心の通い合う共有時間をもつことは、子育てにおいて、極めて重要なことの中の一つであるといえよう。

幼稚園や保育所における集団保育では、保育内容5領域「言葉」の領域において、幼児期における絵本や絵本の読みきかせの大切さが述べられている。幼児は、絵本や物語などで見たり、聞いたりした内容を自分の経験と結びつけながら、想像したり、表現したりすることを楽しむという特徴がある。そして現実には自分の生活している世界しか知らない幼児にとって、絵本を読みきかせることは①様々なことを想像する楽しみと出会うことができる。②登場人物になりきることなどにより、自分の未知の世界に出会うことができ、想像上の世界に思いを巡らすことができる。③なぜ、どうしてという不思議さを感じることができる。④わくわく、ドキドキして驚いたり、感動したりすることができる。⑤悲しみや悔しさなど様々な気持ちに触れ、他人の痛みや思いを知る機会となる。このように幼児期には絵本の世界に浸る体験が大切であることが明記されている。

また保育所の3歳未満児では、生後6ヵ月から1歳3ヵ月未満児においては、この時期

*長崎大学教育学部家政教育

に与えられる絵本は、豊かな応答的環境の一つとして、興味や好奇心が芽生える対象となるものである。そして1歳3ヶ月から2歳未満児では、絵本は子どもと保育士との豊かな交流の一つとして、子どもは保育士と一緒に絵本を見ながら、簡単な言葉の繰り返しや模倣をしたりして楽しむようになる。この様なことから、集団保育においては子どもが極めて幼い頃から身近なものの絵本が与えられていることが分かる。

ところで家庭での読み聞かせは、子どもにとっては自分ひとりだけ親を独占し、愛情をひとり占めできる瞬間である。そして自分のペースに合わせて話してもらえ、自分の興味のあることを中心に見たり、読んだりすることができるという利点がある。

現代という時代は、何かせかせかと追いたてられているような時代である。テレビをみる時間があっても、ゆとりがなく、忙しいというような気持でせきたてられる。不思議な時代である。一方子どもの遊び内容は変容し、ビデオ鑑賞やテレビゲーム、ファミコンの普及に伴って、子どもたちの「読書離れ」がいわれる。

本研究においては、家庭での絵本の読み聞かせ（読み語り）に焦点をあて、乳幼児をもつ保護者に絵本の読み聞かせについてどのように考え、日々子どもと交流しているか、また読み聞かせを通して子どもに何を伝えたいか、考察した。

研究方法

長崎市内の保育所、幼稚園に通う乳幼児（0歳～6歳）の保護者283名（男児147名、女児136名）を対象に、絵本の読み聞かせの必要性や家庭での実施状況、絵本の選び方、読み聞かせを通して子どもに伝えたいこと等、質問紙法により実施した。実施時期は、平成15年8月から10月である。

結果

1. 親子でする遊び・ふれあいの中での「絵本の読み聞かせ」の位置

乳幼児の子どもたちは家庭で親と一緒にどのような遊び・ふれあいをよくしているか。11項目をあげ、多い順に2つ選んでもらった。そして「絵本の読み聞かせ」は子どもの遊びの中でどの位置にあるかを調べた（図1）。

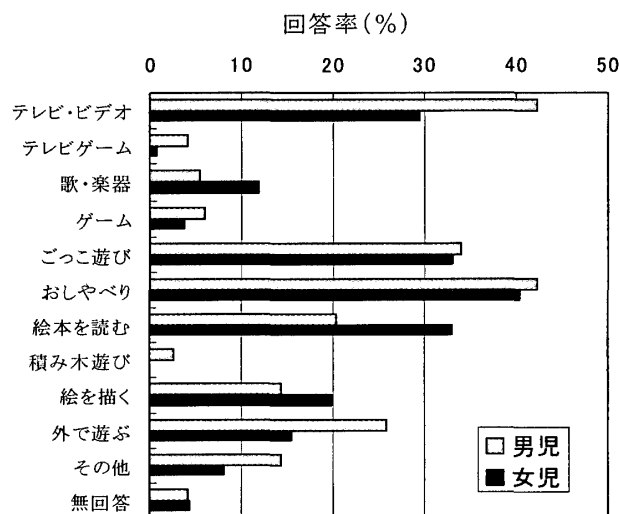


図1. 親子の遊び・ふれあい

男児の親子遊び・ふれあいで最も多かった項目は「テレビ・ビデオをみる」と「おしゃべりをする」がともに42.2%であった。3番目は「ごっこ遊び」(34.0%)、続いて「外で遊ぶ」(25.9%)、「絵本を読む」(20.4%)の順であった。

女児の親子遊び・ふれあいで最も多かった項目は「おしゃべりをする」(40.4%)だった。2番目は「ごっこ遊びをする」と「絵本を読む」がともに33.1%、続いて「テレビ・ビデオを見る」(29.4%)、「絵を描く」(19.9%)の順であった。「絵本を読む」は家庭での親子遊び・ふれあいでは、男児は5位、そして女児は2位に位置していた。

親子遊び・ふれあいの性差についてみると、殊に男児の方に多かった遊び・ふれあいは、「テレビ・ビデオを見る」(男児42.4%に対し女児29.4%)や「外で遊ぶ」(男児25.9%に対し女児15.4%)にみられ、一方殊に女児の方に多かった遊び・ふれあいは、「絵本を読む」(女児33.1%に対し男児20.4%)にみられていた。

2. 絵本の読み聞かせの必要性

家庭での絵本の読み聞かせは「必要である」と思っている親は、全体の97.9%と高い割合を示していた。他方家庭での読み聞かせは「必要でない」と思っている親は1.4%、そして「どちらでもない」と思う親は0.7%といずれも少なかった。

そこで絵本の読み聞かせは「必要である」と答えた親を対象に、読み聞かせが必要である理由を11項目挙げ、その中から2つ選んでもらった(図2)。

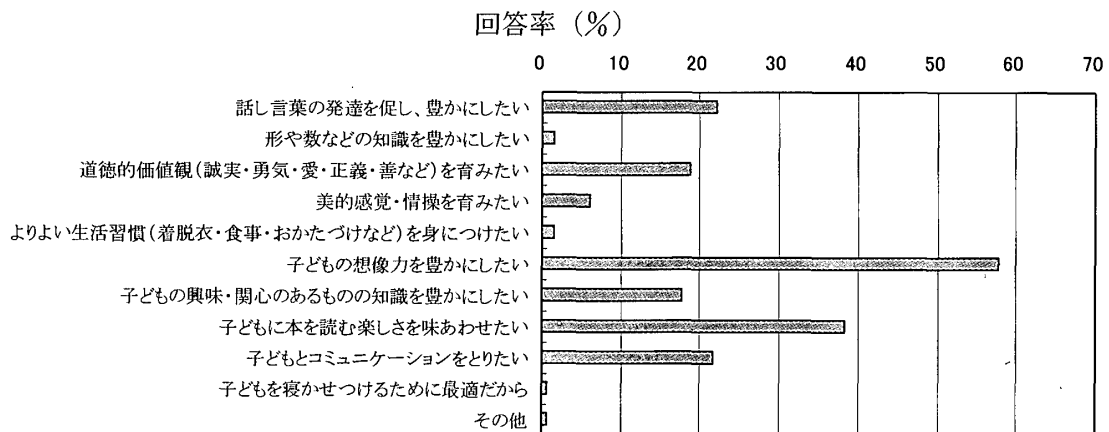


図2. 家庭での読み聞かせの必要性(理由)

家庭での絵本の読み聞かせが必要な理由として、最も多かった理由は「子どもの想像力を豊かにしたいから」(57.8%)であった。次に「子どもに本を読む楽しさを味あわせたいから」(38.8%)であり、続いて「話し言葉の発達を促し、豊かにしたいから」(22.0%)、「子どもとのコミュニケーションをとりたいから」(21.7%)、「道徳的価値観(誠実・愛・正義・善など)を育みたいから」(18.8%)の順に、上位5位にあげられていた。一方、理由として割合の少ないのは、「形や数などの知識を豊かにしたいから」と「より良い生活習慣(着脱衣・食事・お片付けなど)を身につけたいから」はともに(1.4%)、また「子どもを寝かしつけるために最適だから」(0.7%)であった。

3. 家庭での読み聞かせの実施状況

1) 読み聞かせの実施状況について、「父母ともしている」(47%) 家庭が最も多かった。次は「母のみしている」(42.4%) であり、「父のみしている」は0%であった。

一方、家庭で絵本の読みきかせをしていない家庭は10.6%みられた。

2) 絵本の読み聞かせの回数。

週に何回読み聞かせを行っているか、[父母とも読み聞かせをしている] 場合では、週1~2回(35.5%) が最も多いが、次に週7回以上(24.4%)、続いて週5~6回(17.7%)、週3~4回は最も少なかった(2.6%)。[母のみ読み聞かせをしている] 場合では、半数近い母親が週1~2回(48.7%) と答えており、次に週3~4回(21.2%) であった。一方回数の多い週5~6回と7回以上はともに15.0%であった。読み聞かせを「父母ともしている」家庭の方が「母親のみ」に比し読み聞かせの回数は多いことが伺える。

4. 家庭での読み聞かせの開始時期

読み聞かせは子どもが何歳の頃から始めているか。[父母とも読み聞かせをしている] 場合の「母親」では、最も多かったのは1歳未満(45.4%) からであり、次いで1歳~1歳5ヵ月(23.8%) であった。約7割(69.2%) が1歳5ヵ月までに開始しており、そして2歳5ヵ月までには86.9%が開始していた。[父母とも読み聞かせをにしている] 場合の「父親」では、最も多かったのは1歳未満(33.3%)、次いで1歳~1歳5ヵ月(23.7%) であった。1歳5ヵ月までに57%が開始しており、母親よりもやや少ないが、2歳5ヵ月までには82.5%が開始していた。[母のみ読み聞かせをしている] 場合では、最も多かったのは1歳~1歳5ヵ月(28.9%) であり、次いで1歳未満(27.2%) の順であった。1歳5ヵ月までには56.1%が開始しており、2歳5ヵ月までには80.7%が開始していた(図3)。

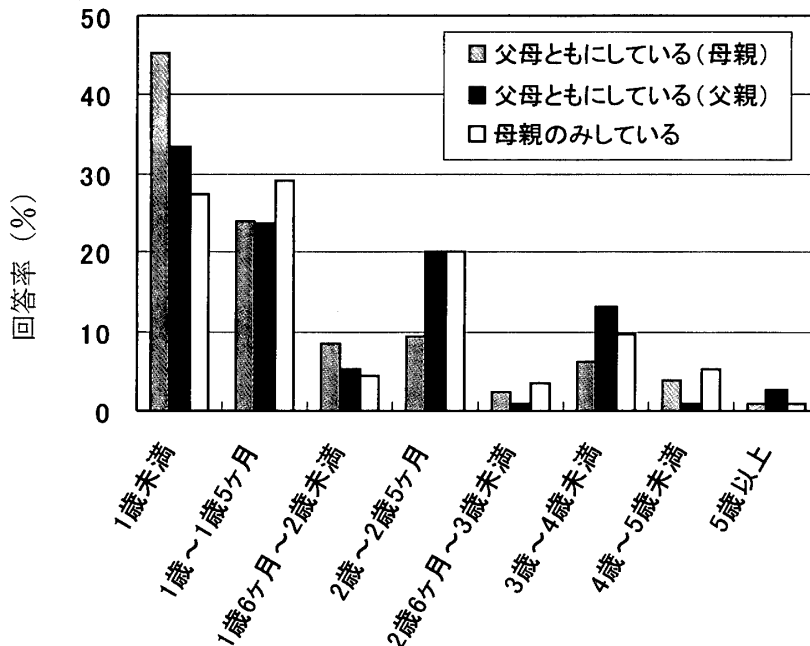


図3. 家庭での読み聞かせの開始時期

5. 家庭での読み聞かせの終了時期

読み聞かせは子どもが何歳頃まで必要と思っているか。「父母とも読み聞かせをしている」場合の「母親」の考えは、「3歳から6歳頃まで」が28.3%と約3割いた。そして「8歳頃まで」では59.1%と約6割に達し、さらに「10歳頃まで」には84.8%に達していた。「子どもが必要とするまで」という答えは7.7%みられるが、11歳以上という考えも7.7%みられた。

〔父母とも読み聞かせをしている〕場合の「父親」の考えは「3歳から6歳頃まで」が44.1%、「8歳頃まで」には71.1%に達し、母親の考えよりはやや早い終了時期の考えがみられた。

〔母のみ読み聞かせをしている〕場合、母親は「3歳から6歳頃まで」は34%と3割強であった。「8歳頃まで」は61.7%と6割に達し、さらに「10歳頃まで」は81.3%に達していた。父母とも読み聞かせをしている家庭の母親の考えとほぼ同じであることがわかる(図4)。

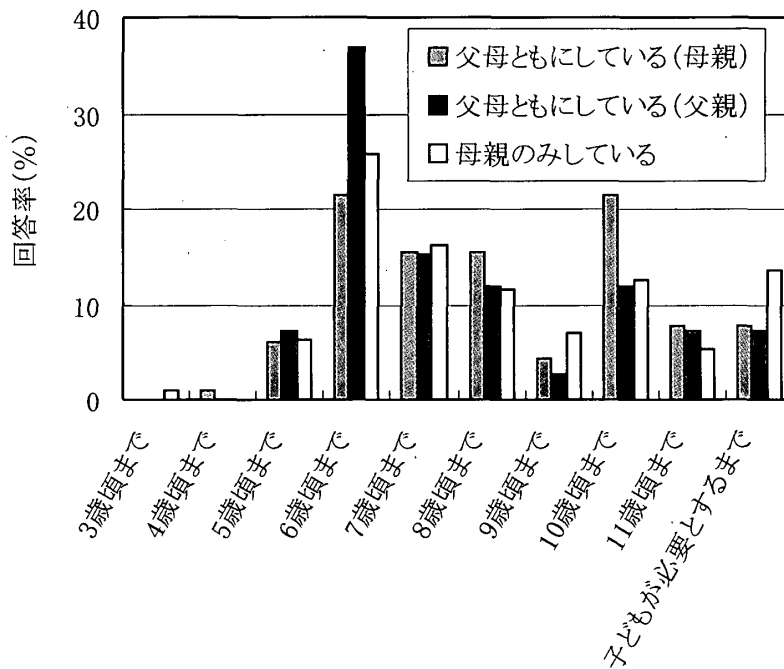


図4. 家庭での読み聞かせの終了時期

読み聞かせの終了時期は、子どもの6歳・7歳頃まで必要という考え、または10歳ごろまで必要と考える双峰の時期が示されているといえる。

6. 絵本の読み聞かせをしている時の子どもの反応

絵本を読み聞かせをしているとき、子どもが主にどのような反応をしているか、8項目から2つ選んでもらった(表1)。

表1. 読み聞かせをしている時の子どもの反応 (2つ選択)

(%)

子どもの反応	父母ともして いる (母親)	父母ともして いる (父親)	母のみしている
黙って絵本に見入っている	87 (65.4)	74 (55.6)	74 (61.7)
絵本の文字や絵を指差す	42 (31.6)	40 (30.1)	31 (25.8)
絵本の文字や絵について「これ、なに？」と聞く	74 (55.6)	58 (43.6)	64 (53.3)
絵本の内容に関連して、自分の身のまわりで起きたことを話す	32 (24.1)	24 (18.0)	38 (31.7)
じっとしてられず、立ち上がる	4 (3.0)	9 (6.8)	3 (2.5)
絵本の読み聞かせをすると笑う・ずっこける	13 (9.8)	26 (19.5)	17 (14.2)
声をあげる	1 (0.8)	0 (0.0)	2 (1.7)
親をみる	1 (0.8)	4 (3.0)	3 (2.5)
その他	3 (2.3)	3 (2.3)	2 (1.7)

〔父母とも読み聞かせをしている〕場合の母親の答えは、最も多かったのは、「黙って絵本に見入っている」(65.4%)、次に「絵本の文字や絵について「これ、何?」と聞く」(55.6%)であった。続いて「絵本の文字や絵を指差す」(31.6%)、「絵本の内容に関連して、自分の身のまわりで起きたことを話す」(24.1%)、「絵本の読み聞かせをすると笑う・ずっこける」(9.8%)であった。他方少ない反応は「じっとしてられず、立ちあがる」(3.0%)、「声をあげる」及び「親を見る」はともに1名(0.8%)と少なかった。

〔父母とも読み聞かせをしている〕場合の父親の答えは、最も多かった子どもの反応は、母親の場合と同じく「黙って絵本に見入っている」(55.6%)、次に「絵本の文字や絵について「これ、何?」と聞く」(43.6%)であった。続いて「絵本の文字や絵を指差す」(30.1%)、「絵本の読み聞かせをすると笑う・ずっこける」(19.5%)、「絵本の内容に関連して、自分の身のまわりで起きたことを話す」(18.0%)であった。他方反応の少ないのは「じっとしてられず、立ちあがる」(6.8%)、「親を見る」(3.0%)は少なく、「声をあげる」は0%であった。

「母のみ読み聞かせをしている」場合では、最も多かった子どもの反応は、「黙って絵本に見入っている」(61.7%)であり、次に「絵本の文字や絵について「これ、何?」と聞く」(53.3%)であった。続いて「絵本の内容に関連して、自分の身のまわりで起きたことを話す」(31.7%)、「絵本の文字や絵を指差す」(25.8%)、「絵本の読み聞かせをすると笑う・ずっこける」(14.2%)、一方、「じっとしてられず、立ち上がる」及び「親を見る」はともに(2.5%)、「声をあげる」は(1.7%)少なかった。いずれの場合も子どもの主な反応は特に上位2位は共通しており「絵本に見入る」、「文字や絵についてこれ、なに?と聞く」。一方、「立ち上がったたりする」ことは少ないことがわかる。

7. 読み聞かせに使う絵本の選び方

読み聞かせをする時、どのような絵本を選ぶかを調べた。絵本の選び方を13項目挙げ、

当てはまるものを2つ選んでもらった(表2)。

表2. 読み聞かせの絵本の選び方(2つ選択)

選 び 方	父母ともして いる(母親)	父母ともして いる(父親)	母のみしている (%)
子どもが読みたいと思う絵本	106 (79.7)	90 (67.7)	92 (76.7)
親が良いと思う絵本	29 (21.8)	29 (21.8)	24 (20.0)
話題(売れている)になっている絵本	1 (0.8)	3 (2.3)	1 (0.8)
人(保育所・幼稚園の先生など)から薦められた絵本	11 (8.3)	5 (3.8)	12 (10.0)
専門家が「良い絵本」としている絵本	8 (6.0)	3 (2.3)	5 (4.2)
何を物語ろうとしているかがわかる	4 (3.0)	12 (9.0)	4 (3.3)
登場人物が鮮やかに描き分けられている	1 (0.8)	1 (0.8)	1 (0.8)
絵の色使いがきれい	16 (12.0)	8 (6.0)	15 (12.5)
文字と絵がマッチしている	1 (0.8)	3 (2.3)	2 (1.7)
話しの内容が良い	27 (20.3)	17 (12.8)	25 (20.8)
子どもに適した用語と、親しみやすい文章である	32 (24.1)	30 (22.6)	28 (23.3)
絵が子どもに親しめる	10 (7.5)	19 (14.3)	11 (9.2)
その他	9 (6.8)	3 (2.3)	9 (7.5)

〔父母ともに読み聞かせをしている〕場合の「母親」の考え方では、最も多かったのは、「子どもが読みたいと思う絵本」(79.7%)が8割と高くみられ、次に「子どもに適した用語と、親しみやすい文章である」(24.1%)であった。続いて「親が良いと思う絵本」(21.8%)、「話の内容が良い」(20.3%)の順であった。一方考え方として少ないのは「専門家が良い絵本としている絵本」(6.0%)、「何を物語ろうとしているかが分かる」(3.0%)、「話題になっている(売れている)絵本」・「文字と絵がマッチしている」・「登場人物が鮮やかに描き分けられている」はいずれも少なかった(0.8%)。

〔父母とも読み聞かせをしている〕場合、父親の考え方で最も多かったのは、母親同様に「子どもが読みたいと思う絵本」(67.7%)であった。次に「子どもに適した用語と、親しみやすい文章である」(22.6%)、「親が良いと思う絵本」(21.8%)の順であった。一方、考え方として少ないのは「話題になっている(売れている)絵本」・「専門家が良い絵本としている絵本」・「文字と絵がマッチしている」はいずれも(2.3%)、「登場人物が鮮やかに描き分けられている」(0.8%)であった。

〔母のみ読み聞かせをしている〕場合、母親の考え方で、最も多かったのは「子どもが読みたいと思う絵本」(76.7%)が8割近くみられた。次いで「子どもに適した用語と、親しみやすい文章である」(23.3%)、続いて「話の内容が良い」(20.8%)、「親が良いと思う絵本」(20.0%)、であった。一方、考え方として少ないのは「専門家が良い絵本としている絵本」(4.2%)、「何を物語ろうとしているかが分かる」(3.3%)、「文字と絵がマッ

ちしている」(1.7%),「話題になっている(売れている)絵本」・「登場人物が鮮やかに描き分けられている」(0.8%)は少数であった。

8. 絵本の読み聞かせによって子どもは絵本が好きになったか

絵本の読み聞かせを行っている親を対象に、子どもが絵本を好きになったかを尋ねた。

「好きになった」と答えた親は87.9%と高い割合がみられた。「いいえ」は1名であり、「どちらでもない」という答えは11.7%みられた。

9. 家庭で絵本の読み聞かせをしていない理由

家庭で読み聞かせは必要であると思っはいるが、実際読み聞かせをしていないと答えた30家庭(10.6%)について、その理由を調べた。理由として13項目挙げ、当てはまるもの2つ選んでもらった。

母親の理由は「自分の仕事が忙しくて、なかなか時間が取れない」(60.0%)をあげていた。次に「子どもが自分で絵本を読んでいる(見ている)」(50.0%),続いて「下の子が生まれたので、なかなかかまってあげる時間が取れない」(26.7%)が上位3位の理由であった。

父親の理由も、「自分の仕事が忙しくて、なかなか時間が取れない」(75.0%)があげられており、母親よりも多く7割を超える高い割合を示していた。次に「子どもが自分で絵本を読んで(見ている)」(27.8%)であった。

続いて「自分以外の家族(大人)が絵本の読みかきかせをおこなっている」(25.0%)であった。

「無理強いしたくないから」という理由は父母ともに1割ほどみられているが、「下の子が生まれたので、なかなかかまってあげる時間が取れない」(5.6%)の理由は母親と比し理由としては少ない割合を示していた。

10. 絵本の読み聞かせを通して子どもに伝えたいこと

絵本の読みかきかせを通して子どもに伝えたいことを自由記述してもらった(表3)。

その結果、多い順に示すと、「絵本の楽しさを伝えたい」(25.6%),「想像力が豊かになってほしい」(25.0%),「豊かな感性をもった子どもになってほしい」(18.1%),「道徳的価値観(命の大切さ・物事の善悪の判断・正義感)を持ってほしい」(16.9%),「親子のコミュニケーション」(10.0%);「優しさをもった子どもになってほしい」及び「思いやりをもった子どもになってほしい」(8.8%),「知識を豊かにしてほしい」(8.1%),「子どもの頃のあたたかい思い出(親のぬくもり・安心感・家族愛)を残したい」(6.9%),言語能力を高めてほしい(6.3%)等が述べられていた。

表3. 絵本の読み聞かせを通して子どもに伝えたいこと
(自由記述)

語 種	人数 (%)
絵本の楽しさ	41 (25.6)
想像力	40 (25.0)
豊かな感性	29 (18.1)
道徳的価値観	27 (16.9)
コミュニケーション	16 (10.0)
優しさ	14 (8.8)
思いやり	14 (8.8)
知識	13 (8.1)
あたたかい思い出	11 (6.9)
言語力	10 (6.3)
絵本の世界	8 (5.0)
夢・希望	6 (3.8)
興味	6 (3.8)
読書習慣	5 (3.1)
生きる力	4 (2.5)
言葉の楽しさ	4 (2.5)
絵本の美しさ	3 (1.9)
表現力	3 (1.9)
集中力	2 (1.3)
思考力	2 (1.3)
絵本好き	1 (0.6)
好奇心	1 (0.6)
探究心	1 (0.6)
教訓	1 (0.6)
人の話を聞く態度	1 (0.6)
自然の不思議さ・偉大さ	1 (0.6)
合 計	264

親が絵本の読み聞かせを通して子どもに伝えたいことは、「このような子どもになってほしい」という子どもの成長への思いや期待が多く述べられているといえよう。

おわりに

家庭での絵本の読み聞かせは必要であると思ひ、実際に読み聞かせをしている家庭は9割を超える高さであった。しかも父母ともに読み聞かせをしている家庭が半数近く(47.0%)みられており、父親も子育ての一環として読み聞かせをしている家庭が思いのほか多いことが分かった。しかし読み聞かせは必要であると思ひていても、「自分の仕事が忙しいから」「第2子の誕生で、なかなかかまっていあげることができないから」などの理由で実施できていない家庭も1割はみられていた。

絵本の読み聞かせを通して、子ども達へ伝えたいことを自由記述してもらった。親の思いを見てみると「このような子どもになってほしい」という親の願いや期待が多く見られた。最も多かったのは「絵本の楽しさを伝えたい」で、楽しさを知ることによって絵本が好きになって、習慣化することを願う親は多かった。また、「想像力豊かな子どもになってほしい」という答えも「絵本の楽しさを伝えたい」と大差なく多かった。これらの上位2位は、絵本の読み聞かせが必要である理由を尋ねた時の回答と同じであり、絵本が子どもの想像力を豊かにするもの、読書の楽しさを伝えるものであると考える親は多い。絵本の世界を想像することは子どもにとって楽しい経験であり、想像する楽しさは絵本の楽しさの1つであるので、この2つの回答は密接な関係であると考えられる。少数ではあったが、「子どもの頃のあたたかい思い出を残したい」と記述している親もみられ、印象に残った。あたたかい思い出とは、親のぬくもりであったり、安心感、家族愛であったりと詳しく記述している親もいた。

特に乳児は、母親に抱かれ、愛されることによって人を信じるという基本的信頼感を育んでいく。乳児期の親(養育者)との触れ合いは、その後の子どもの成長に欠かせないものである。乳児期に子どもを膝の上に乗せて同じ時間を共有し、くつろいだ気持ちで読み語ることは、子どもにとっても心楽しく気持ちよい瞬間であろう。「子どもの頃のあたたかい思い出を残したい」と述べられた親は、きっと乳幼児期における親子との触れ合いを重視し、コミュニケーションの一つとして絵本の読み聞かせをしているように思える。さらに言葉の発達が著しい乳幼児期に、子どもが充実した言語生活を送るためには、家族や友達などの周囲の人々との会話や触れ合い、子どもの物事に対する興味や関心、色々な経験が必要である。絵の発する言葉を視覚で受け取ることで絵本の世界を楽しむことができ、乳幼児の言語生活においても大事な経験であると考えられる。幼い幼い日から、親の読み聞かせがもたらすであろう感動との出会いが、読書の習慣形成や親子間の心の交流にとっても、日々の子育ての重要なものの中の一つとして大事にとらえていきたいと考える。

文 献

1. 椋 鳩十：童話と子育て論 教育と医学 27巻1号, 41-46, 1979.
2. 派木井やよい：読み聞かせのすすめ—子どもと本の出会いのために—一国土社 1994.
3. 全国保育団体連絡会編：絵本・紙芝居・お話・劇 草土文化 1989.
4. 伊藤 淳一：現代の子どもたちと「昔ばなし」小児保健研究, 61巻1号, 28-33, 2002.